

## 研修会報告

令和元年 9 月 9 日

文責：輸血検査部門 岩橋 隆之

研修会テーマ「初級者・宿日直者向け輸血実技研修会」

開催日時 令和元年 9 月 8 日（日）13：50 ～16：30

会場 東北大学医学部保健学科 A 棟

生涯教育点数 専門 20 点

参加者 会員参加者 13 名 非会員 2 名 賛助会員 0 名 実務委員 7 名 学生 0 名 計 22 名

### 内容

今回の研修会では東北大学医学部保健学科にて輸血検査の初級者や日当直時のみ輸血検査に携わる技師を対象として ABO、RhD 血液型の実技研修会を開催した。宮臨技として輸血部門で実技研修会を行うのは数年ぶりであり、企画、準備を行う上で手探りの状態であったが、輸血検査部門員以外に東北大学病院輸血部スタッフの技術協力を得て何とか無事開催することが出来た。輸血検査は時間外においても緊急検査として必須の検査であるにも関わらず、各施設で知識、技術共に十分とは言えない非輸血検査担当技師が行う事は珍しくなく、多くの検査技師が不安を抱えながら輸血検査に従事している姿は容易に想像できる。本研修会はそういった日々疑問を抱きながらも確認するすべがない、不安を抱えながらも頼れる存在が近くにいない方々の問題を解消するだけでなく、中長期的に彼らの不測の事態における間接的なバックアップとなれるよう県内の施設間の信頼関係構築も目標に開催された。参加者は輸血検査担当の新人技師から非輸血検査担当者まで様々であり、各施設での立場や求められる役割も異なる為、全員に一貫した指導は非効率的と考え、班分けの段階で同様の立場や境遇の参加者同士をグループごとに分ける事で、参加者のレベルに則した指導を行うように努めた。結果的により有益な説明、指導ができたように思う。また県内の各施設の輸血検査の現状や問題点も把握することができた為、研修会の内容だけでなく検査体制などについてもアドバイスすることが出来た点は今回の研修会を開催した大きなメリットとなったと思う。ただ、当初予定した募集人数には至らなかった為、研修会自体は非常に有益であったと感じるが、県内の会員のニーズに合致した研修会を開催できたかどうかは再考すべき部分である。今後は学術部が目指すものを会員が参加したいと思える研修会へリンクさせながら企画する必要がある事を学んだ研修会であった。